中医協　材－２
８．１１．２５

JAHID
Japan Association of Health Industry Distributors

中央社会保険医療協議会
保険医療材料専門部会

逆ザヤに関する業界ヒアリング資料

【医療機器流通】

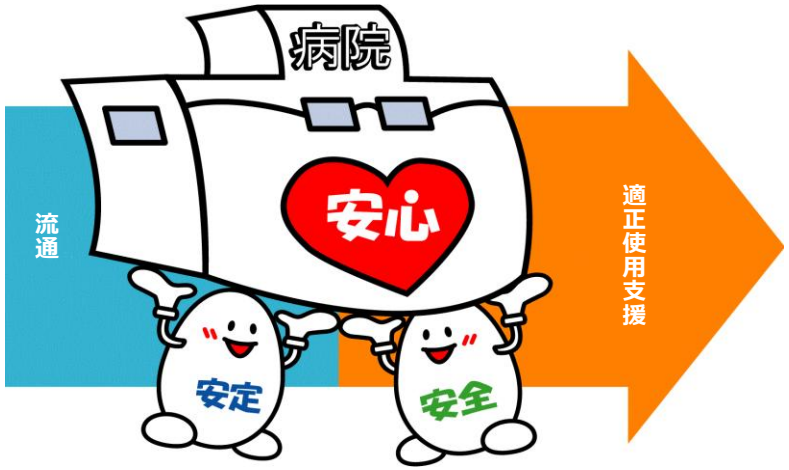
2026年11月25日

一般社団法人　日本医療機器販売業協会（医器販協）

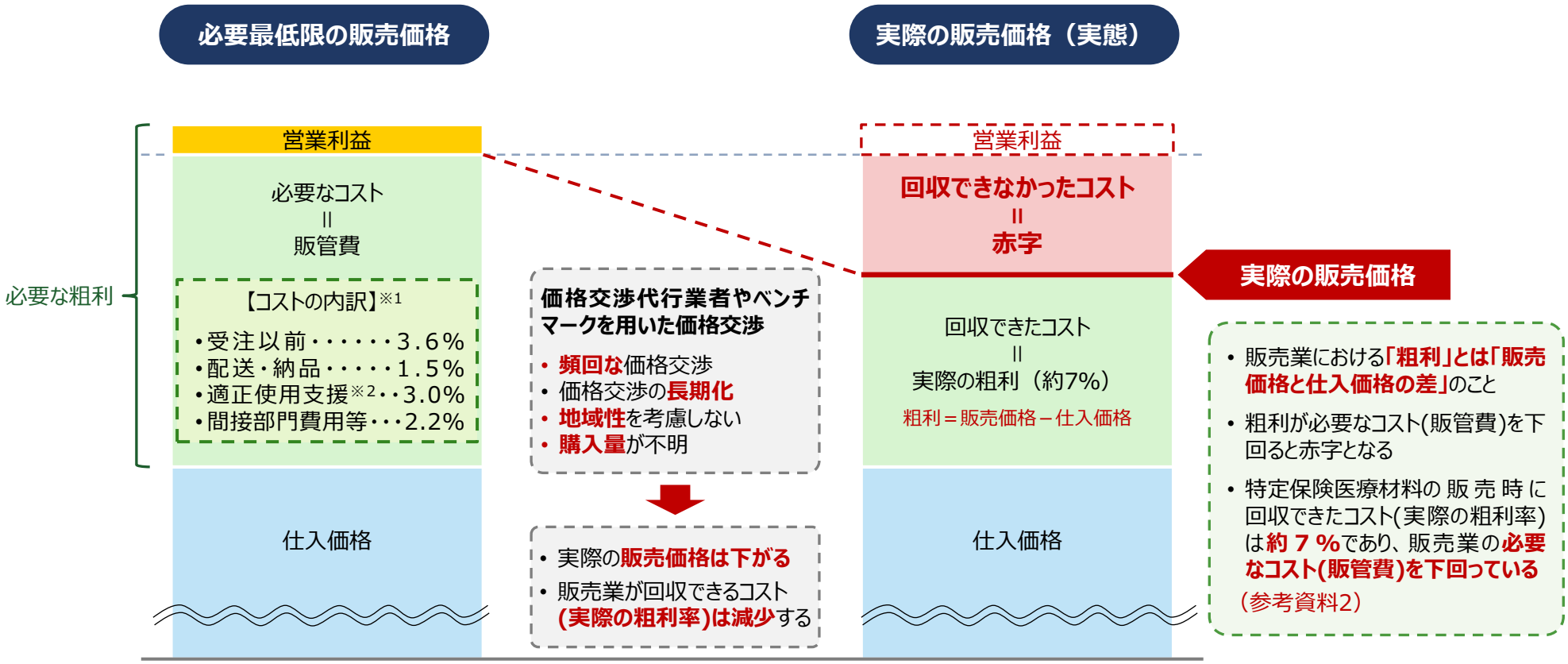
本日の内容

1. 医療機関との価格交渉の実態
2. 販売業から見た逆ザヤの価格構造メカニズム

参考資料１　適正使用支援業務とは
参考資料２　特定保険医療材料の粗利率の推移
参考資料３　流通効率化のための取り組み例



1．医療機関との価格交渉の実態

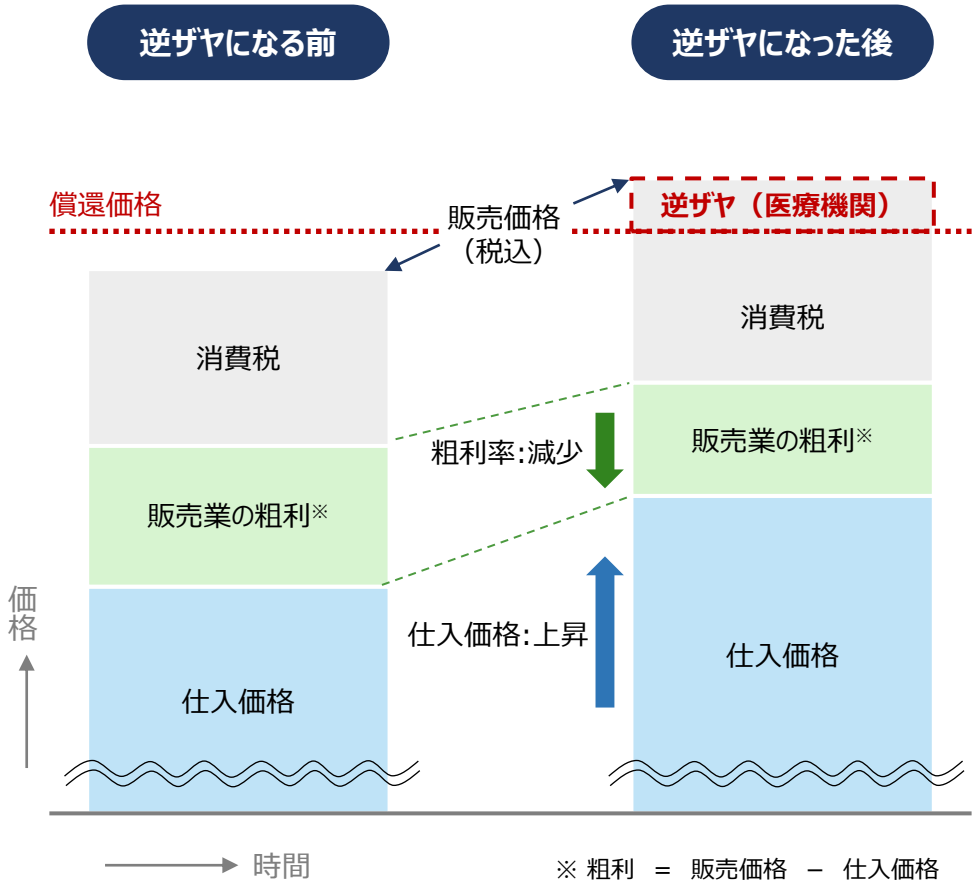


※1 日本医療機器販売業協会　実態調査結果より
- %数値は販売業全体の平均値
- %数値は販売価格（税抜）に対する割合

※2 参考資料１参照

➢ **特定保険医療材料は償還価格が販売価格（医療機関の購入価格）の基準となるため、逆ザヤであるなしに関わらず販売業は必要なコスト（販管費）を確保できていない**

2．販売業から見た逆ザヤの価格構造メカニズム



▲ 販管費のコストアップ要因

物価高騰によるコスト上昇を抑えきれなくなっている

- 人件費、燃料費等の高騰
- その他さまざまな固定費の上昇

▼ 販管費のコストダウン要因

流通効率化のために様々な取り組みを行っている（参考資料3）

- 共同配送
- 物流センターによる在庫一元管理

- 必要なコスト(販管費)･･･販売業による流通効率化の取り組みにもかかわらず**上昇している**
- 特材の粗利率･･･医療機関との価格交渉の結果、**減少傾向にある**（参考資料2）

現在の粗利率では医療機器の**安定供給に影響が及ぶ恐れ**がある

昨今の状況変化により、**仕入価格が上がっている**

- 仕入掛率の上昇
- 希望小売価格の上昇

メーカーとの価格交渉の実態
⇒ **償還価格に追従できなく**なっている

- **仕入価格の上昇**が逆ザヤの要因になっている
- **流通効率化の取り組みにもかかわらず、物価高騰により必要なコスト（販管費）が上昇しており、今後は医療機器の安定供給に影響が及ぶ恐れ**がある

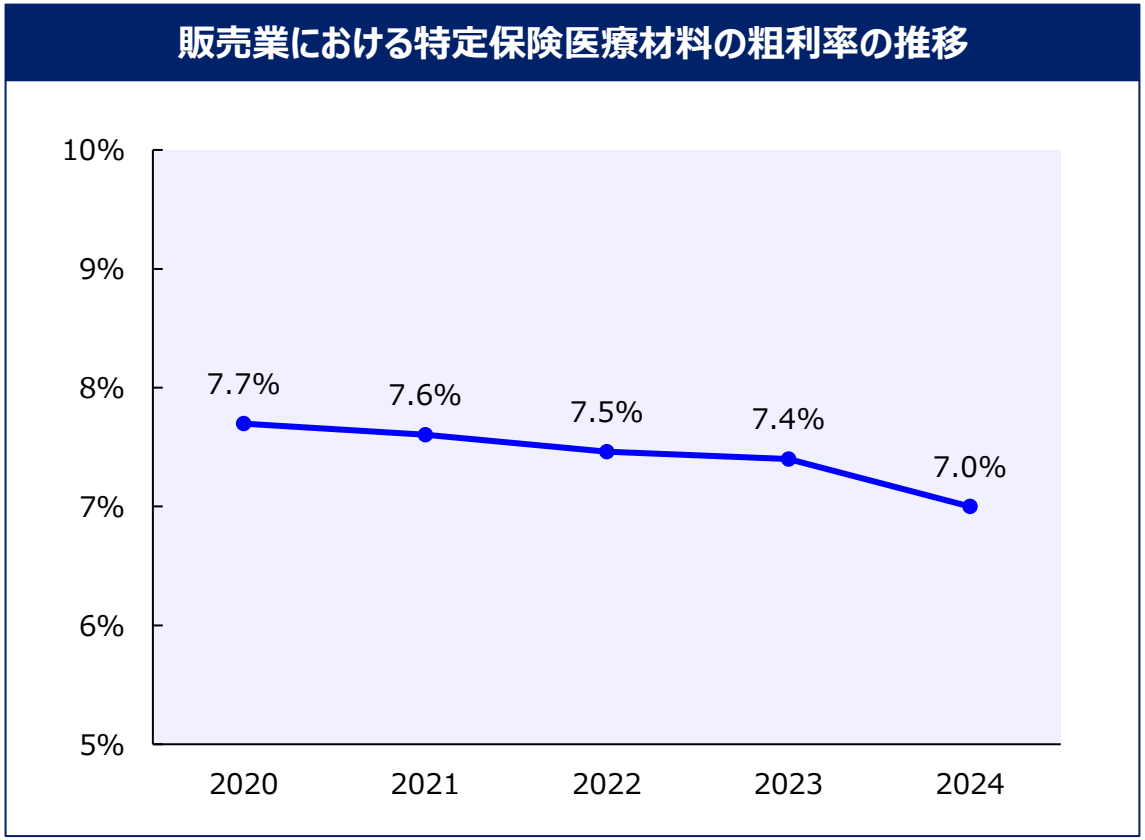
参考資料１　適正使用支援業務とは

適正使用支援業務とは、医療機器の特性を踏まえ、医療機関における医療機器の安全かつ適正な使用を総合的に支援する下記の業務

- ✓ **預託在庫管理**
  医療機器・医療材料で、使用頻度の低いもの、高額なもの、緊急を要するものを中心に販売業者や製造販売業者が自社資産として医療機関等内に預託在庫として配置し、販売業者が在庫管理の一部を代行する業務
- ✓ **短期貸出し・持込み**
  検査・処置・手術ごとに使用する医療機器・医療材料が異なるため、必要な物品をその都度手配・配送し、使用後には引上げ・回収までを行う。未使用の物品は自社倉庫またはメーカーへ返却し、実際に使用された物品についてのみ売買を成立させる一連の業務
- ✓ **立会い**
  医療現場（手術・検査等）において、医療機器の操作・使用方法等に関する説明や情報提供を行い、医療機器の適正かつ安全な使用を支援する業務
- ✓ **修理・保守※**
  医療機器の故障や不具合に対する修理、定期的な点検・保守を行い、医療機器の安全かつ安定した稼働を維持するための業務。
- ✓ **緊急対応**
  緊急症例や手技中の医療機器の不具合等に対応するため、通常の営業時間に加え、休日・深夜を含む24時間365日、必要な対応や物品の配送を行う業務

※：修理・保守は特定保険医療材料では発生しない

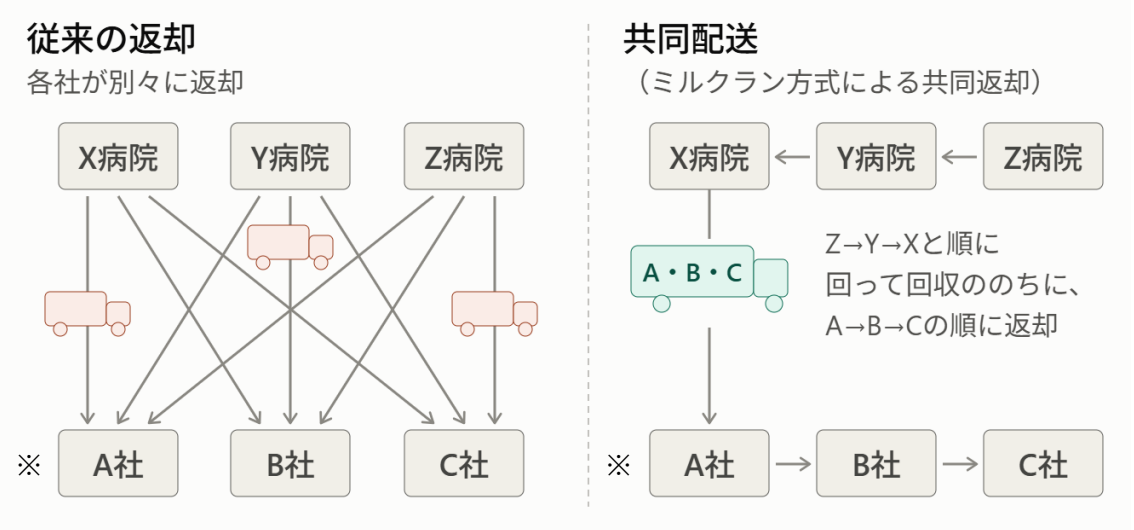
参考資料２　特定保険医療材料の粗利率の推移



資料：日本医療機器販売業協会アンケート（2022、2024）
回答企業
70社（2020、2021）
71社（2022）
78社（2023、2024）

参考資料３　流通効率化のための取り組み例

共同配送（ミルクラン方式による短期貸出品の返却）

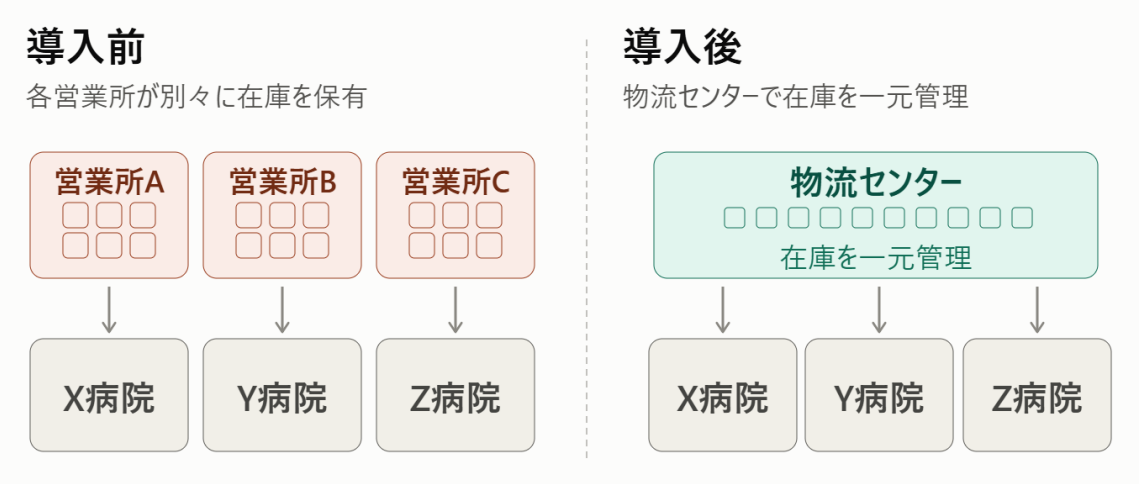


手術などで使用した短期貸出品の返却において、ミルクラン方式で各病院から集荷した商品を複数の販売業者に返却する

- 輸送コスト・台数の削減
- 病院側の負担軽減
- 管理・品質面・運用面

※販売業・製販業者

物流センターによる在庫一元管理



【在庫面】
- 総在庫量を減らせる
- 欠品・過剰在庫が減る
- 期限切れのリスクが下がる

【業務・品質面】
- 在庫状況を一括で把握できる
- 品質管理を統一できる
- 営業所の負担が減る

【コスト・物流面】
- スペースと人件費を抑えられる
- 配送を最適化しやすい